

はじめに

一宮市博物館は昭和 62 年（1987）11 月の開館以来、郷土の歴史を発掘し、先人の文化遺産を護り、それらを後世に伝える施設として活動を行ってきました。ここに、『一宮市博物館年報(14) 平成 25・26 年度』を刊行し、平成 25・26 年度の事業について報告します。

この間における大きな事業としては、平成 17 年度から検討してきた常設展示リニューアル事業を平成 26 年度に完了し、平成 26 年（2014）10 月 18 日にリニューアルオープンしたことが挙げられます。本事業では、博物館を「市民の憩いの場」にすることをコンセプトのひとつに掲げてきました。このため、常設展示の内容を一新するに止まらず、新しく無料観覧ゾーンとして、「たいけんの森」および 2 階に「ギャラリー」を設置しました。「たいけんの森」では、子どもたちの豊かな博物館体験を支援するため、さまざまな体験キットや講座を実施していく予定です。また、一般貸出に特化した展示スペースを新設したことで、一般の方々の作品発表の場としても利用していただけるようになりました。さらに、来館者の利便性を図るため、乗用エレベーターと喫茶コーナーの新設も行いました。

展覧会事業としては、平成 25 年度には、特別展「縄文から弥生へ～馬見塚遺跡の時代」を開催し、市内に所在する愛知県指定史跡「馬見塚遺跡」について、その研究史を振り返り、馬見塚遺跡出土資料が語る尾張平野の縄文時代後晩期から弥生時代の様相を他地域の資料と比較展示することにより紹介しました。また、当館が所蔵する毛織物資料（墨コレクション）のうち明治時代から昭和時代にかけて着用された大礼服や軍服を紹介した企画展「近代の洋装と毛織物」、木曾川流域に広がった阿弥陀信仰について紹介した企画展「阿弥陀信仰と木曾川流域」などを開催しました。平成 26 年度には、常設展示リニューアル開館を記念して、妙興寺に伝えられる文化財を一堂に展示した特別展「妙興寺展」を開催しました。市内小学校との連携による企画展「暮らしの中の民具」も継続して行いました。

このような展覧会事業のみならず、「古文書講座」や博物館講座「尾張平野を語る」などの各種普及事業にも力を入れてきました。文化財保護事業の一環として開催してきた「文化財めぐり」や「民俗芸能公演」など、いずれも多くの皆様のご好評を得ています。

こうしたこれまでの活動を振り返る本年報を刊行することにより皆様のご助言を仰ぎ、博物館活動・文化財保護のさらなる充実に努めたいと存じます。今後とも市民の皆様をはじめ関係各位の一層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成 28 年 3 月

一宮市博物館